

サルトリイバラ



(撮影：桐原真希)

戸構にて

■あの赤い実どこいった？

私は鳥取に来てから、この植物の別の名前を始めて知りました。このあたりで、5月の柏餅に使う葉はこれです。「山帰来(サンキライ)」もしくは「かたらの葉」のほうがピンとくる方も多いかもしれません。晩秋、林縁で目立つ1センチ弱の赤い実が つきます。しかしこの数年、写真を撮り直そうとして実を探していたのですが、十分な実をつけたツルを見かけないまま、今年の秋を迎えることになりました。今回の写真は3年前の11月2日に撮影したものです。クリスマスやお正月用のリース工作に是非使いたいと、まだ青い実の時期から探していますが、目に入るのは大きな丸い葉っぱだけ。不作の年が続いているのか、それとも何かに食べられてしまったのか、謎のままです。

■実は木の仲間

学生時代、サルトリイバラを調べようとして懸命に草花の図鑑をめぐっていました。しかし、どの図鑑も掲載されておらず、まさかと思つて樹木の図鑑を開いてみたらしっかり紹介されていたことに、大変驚きま

した。てつきり草のツルかと思つていたら、木の仲間だったのです。昔の図鑑にはユリ科とされていましたが、現在はサルトリイバラ科として扱われているようです。さらに調べて見るとサルトリイバラは、オスとメスが違う株で育つ雌雄異株とのこと。ということは、実を見かけないのは、オスのツルばかりなのか、それとも花の咲く季節に、その花に訪れて受粉を助けてくれる虫たちが激減しているのか、やはり謎は深まるばかりです。

■歯形があつたら：

もしサルトリイバラの葉に虫食いの歯形が残っていたら、そつと葉っぱをひっくり返してみましよう。もしかしたら、ものすごいトゲを持った毛虫が鎮座しているかもしれない。触つても炎症の心配のない、見かけ倒しの防衛服をまとつた幼虫、ルリタテハというステキな蝶の赤ちゃんです。成虫は黒地に気品ある紫色の帯が目立ちます。今年こそ赤い実と毛虫の撮影ができるか、深まる秋の南部町を見て回りたいと思います。

自然観察指導員 桐原真希